

第 36 回岩手大学男女共同参画推進のための学習と交流の会「学生からの発信」を開催しました

岩手大学男女共同参画推進室は、男女共同参画推進に関わる2つの学生活動「男女共同参画推進学生委員会」(以下 GESCO)、「次世代育成サポーター」を支援しています。今年度、感染症流行下で活動が大きく制約される中、「新型コロナウイルス感染症流行と DV」をテーマに活動した「男女共同参画推進学生委員会」と、子育て支援ボランティア活動に力を発揮した「次世代育成サポーター」が、学内外に向けて発信する機会として、2021年2月12日に、第36回岩手大学男女共同参画推進のための学習と交流の会「学生からの発信」をオンラインで開催しました。岩手大学学生・教職員、行政・NPO 関係者 19 名が参加し、当日の進行・運営は、GESCO 委員が分担して担いました。内容は次の通りです。

開会	
男女共同参画推進学生委員会 2020 年度活動報告「新型コロナウイルス感染症流行と DV」	GESCO
次世代育成サポーター2020 年度活動報告	次世代育成サポーター
コメント	岩手県男女共同参画センター長 山屋理恵
意見交換	
講評・閉会	岩手大学副学長/男女共同参画推進室長 宮本 ともみ

GESCO は、年間を通じて取り組んだ「新型コロナウイルス感染症流行と DV」について、インタビュー調査とアンケート調査の整理分析結果とそれらに基づく考察を発表しました。次世代育成サポーターは、保育園での園児との触れ合い活動と、ぱるん kid's スクールでの児童の活動支援を中心に、活動について発表し、自身にとってのサポーター活動の意味を述べてしめくりました。活動報告に対し、インタビュー調査への協力機関、岩手県男女共同参画センター長より「岩手県にとって、大学生がこのテーマを重要と考えて真摯に取り組んだことの意義は大きい。当センターとしても、皆さんのインタビューへの応答が、“新型コロナウイルス感染症流行と DV”という課題への取組のあり方を問い直し、深める契機となった。」とのコメントがありました。続いて、コロナ感染防止対策上制約があった中での活動の苦労や工夫、DVについては、どうしたら孤立・沈黙しがちな被害者を専門機関・支援につなぐことにできるか、デート DV を防止するために学内でどのようなことをしていけるか等について、活発な意見交換が行われました。

会を総括して、副学長/男女共同参画推進室長より「コロナ禍の制約にもかかわらず、両活動とも、活動が発展した。GESCO は、インタビューの実践を通じて社会とつながり、アンケート調査の実践を通じて問題を見える化することができた。今回、行政、専門機関の皆さまから助言を頂き、皆で意見を交わす中で、見える化からさらに対応・問題解決へと視点が展開した。今後両活動がさらに発展するとともに、活動間の日常的なつながり・協働が実現することを期待する。」との講評がありました。参加者アンケートでは、全回答者が、本会は「有意義だった」(84.6%) または「ある程度有意義だった」(15.4%) と回答し、極めて好評でした。

